

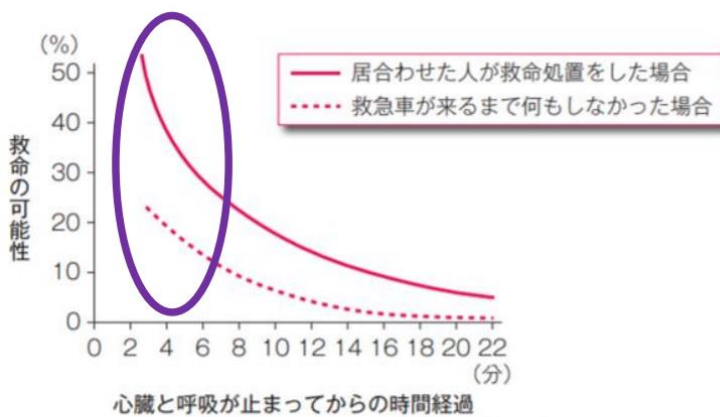


職場における救急対応と一時救命措置

日頃なかなか意識できないことに、“職場における不調者への緊急対応”があります。一般的な職場では救急時への対策は突発的な発生に動揺し、おろそかになりがちです。一方で、近年 AED（自動体外式除細動器）が、人の多く集まる場所を中心に全国に普及し、職場にも設置されるようになり、救命救急に関する研修機会も増えています。

居合わせた人による一時救命措置と社会復帰率をみると、心拍と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下しますが、救急隊を待つ間に居合わせた一般人が救命処置を行うと救命の可能性が2倍程度に保たれることが分かります。

さらに、救急隊が電気ショックを実施した場合の1か月後の社会復帰率は18.9%に対し、居合わせた人が、救急隊の到着前に電気ショックを行った場合は43.3%でした。このように、居合わせた人（バイスタンダーと呼ぶ）による救命措置が傷病者の命を左右することが分かります。これは、職場でも全く同じことがいえます。

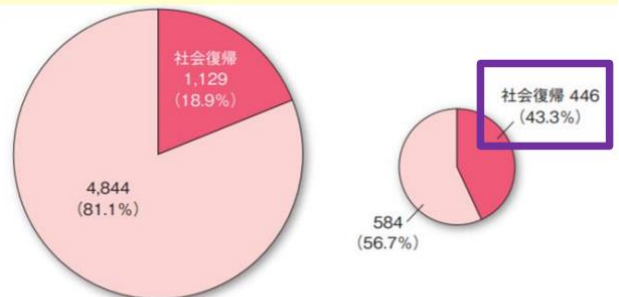


【厚生労働省:救急蘇生法の指針 2015 より】



居合わせた人による救命措置が傷病者の命を左右する

救命の可能性は時間とともに低下しますが、救急隊の到着までの短時間であっても救命処置をすることで高くなります
[Holmberg M : Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 2000 : 47(1) : 59-70. より引用・改変]



救急隊が電気ショックを行った場合 (5,973例) 市民が電気ショックを行った場合 (1,030例)
電気ショックを救急隊が行った場合と市民が行った場合の1か月後社会復帰率

緊急対応時の初期対応

まずは慌てず、落ち着く

- ・ 傷病者を横にして安静を保つ
- ・ 危険な環境を排除して安全を確保
- ・ 名前を呼んで意識確認
- ・ 応答あれば、症状の有無や程度、過去の同様の症状の有無・対処方法の有無等を確認



こんな時はすぐに救急車を要請！

- ・ 突然のしびれや半身の麻痺
- ・ 意識障害 / 呼吸困難
- ・ 経験のない耐え難い急な頭痛や腹痛、胸痛



〇〇さん、わかりますか？
大丈夫ですか？



普段の生活で対策できること

- ・救命救急講習や心肺蘇生講習等の定期的な受講
- ・緊急対応時の対応方法の確認（対応フロー等の周知、連絡先の確認）
- ・救急箱の設置

= 職場に救急箱が必要な理由 =

労働安全衛生規則・事務所衛生基準規則により救急箱の設置、必要物品が義務づけられています。

※救急箱はあくまでも緊急時に使用するため、常備薬は各自が用意するようにアナウンスしましょう

※管理責任者が、月1回程度定期的に中身の点検と有効期限のチェック、欠品の補充をしましょう

～熱中症の応急処置に必要な物品～

冷却剤(氷嚢、アイスパックなど) /送風器具(団扇、扇風機など)/スポーツドリンク・経口補水液(冷やしたもの) /水 もしくは ゆるいお湯(可能ならば、霧吹き)※空調がない屋外などでは、水やぬるめのお湯をふきかけて送風することで、気化熱で体温が下がる/携帯電話(現場から、救急車等手配)

▶ 熱中症を疑う症状(重症度分類)と対処法 (環境省熱中症環境保健マニュアル 2022 より)

暑さ指数(WBGT 値)が高い状態で下記の症状がみられたときは、熱中症を疑ってください。重症度は刻々と変化する可能性があるため正確に判定する必要はありませんが、症状を参考にして観察してください。



重症度Ⅰ度
(軽症)

意識ははっきりしている

手足がしびれる

めまい、立ちくらみがある

筋肉のこむら返りがある(痛い)

現場で対応し経過観察

涼しい場所へ避難して服をゆるめ体を冷やし、水分・塩分を補給しましょう。誰かがついて見守り、良くならなければ、病院へ。



～対応の基本～

1.休息 (Rest) : 安静にできる場所へ移動、衣服を緩めたり脱がせ、安静にさせる

2.冷却 (Ice) : 空調の効いた涼しい場所で体を冷やす

3.水分補給 (Water) : 意識がはっきりしている場合に限り、水分補給を行う。意識障害がある・吐き気がある場合は、医療機関での輸液が必要と考える

4.自力で水を飲めない、意識がない(鮮明でない)場合は迷わず救急車を呼ぶ

※軽症でも症状が持続する場合は受診をさせる(職場の方が連れていく)
※救急通報時の手順を確認しておく(なるべく簡潔な方がよい)

5.一度熱中症にかかった人は、再度熱中症になりやすいと言われている。業務再開時は体調に十分気を付ける。



重症度Ⅱ度
(中等症)

吐き気がする・吐く

頭がががする(頭痛)

からだがだるい(倦怠感)

意識が何となくおかしい

医療機関を受診

すみやかに医療機関を受診しましょう。



重症度Ⅲ度
(重症)

意識がない

呼びかけに対し返事がおかしい

からだがひきつる(けいれん)

まっすぐ歩けない・走れない

からだが熱い

救急車要請

救急車を呼び、到着までの間、積極的に冷却しましょう。

